

日本癌治療学会 PAL ASCO2018 助成 参加報告

野中 希 一社) 日本癌医療翻訳アソシエイツ (JAMT・ジャムティ)

日本癌治療学会 (JSCO) PAL による ASCO 助成金により、ASCO2018 に参加させていただきました。2011 年、2012 年に ASCO Patient Advocate Scholarship を頂いて以来 6 年ぶりの参加でしたが、今回は、同じ JSCO から参加される日本の患者さんたち数名と一緒に、出発前からいろいろと相談できましたし、先生方も同行くださり、賑やかで楽しいプログラムとなりました。

手続きや準備はある程度知っていたこともあれば、以前とは変わっていたこともあり、メンターのお二人に伺って無事進められました。一番困難だったのは、何と言ってもホテル探しで、ASCO 期間中の高額なホテル代に、相手を探して二人で宿泊し、なんとか賄うことができました。メンターの方々が、先生を含め Facebook でグループを作っているいろいろアドバイスをくださったのが助かりました。





アドボケートラウンジにて

米国臨床腫瘍学会 (ASCO) 2018 患者アドボケート参加



日本癌治療学会ブースにて
上段: 粕栗先生、富田先生
下段: 加藤奈津さん(くまの間)、野中希(JAMT)、田村英人さん(いずみの会)



ASCO アドボケートラウンジが用意されており、毎日朝と昼には食事がてら立ち寄りました。そこで日本の患者アドボケートの方々ともコミュニケーションがとれました。米国およびそれ以外の国のアドボケートのみなさんともここで交流できる場所です。懐かしい患者さん方との再会も果たすことができました。

ある日には、患者向けのランチョンも用意されており、米国食品医薬品局 (FDA) や米国国立がん研究所 (NCI) の方々からシステムに関する話やリサーチアドボケートに関する話がなされました。

日本癌治療学会ブースも聴講の合間に覗いては、先生や仲間の皆さんと顔を合わせる事ができました。ブース前を通る方々はしばしば JSCO に関心をも

って資料やグッズを手に入れて行かれました。

ASCO 学会中は、広大な会場を早朝から夕方まで歩き回って学術セッションを聴講しました。あらかじめ、どの発表を聞きたいか調べることも大事で毎日準備も欠かせません。ASCO 学術集会では、これまでの標準治療が代わるような大きな第3相試験などの発表が目白押しで、多くの人々が結果に注目してい



るのがわかりました。

最も重要な結果が発表されるプレナリーセッションは、以下の4演題です。肺がんについては、当会理事長も参加された研究でした。

早期乳がん 化学療法不要	・ 遺伝子検査に基づく再発リスクが中等度である乳がん女性を対象に、化学療法とホルモン治療併用またはホルモン療法単独とを比較した第3相ランダム化比較試験 TAILORx
30年ぶりの小 児がん治療の進 歩！	・ 筋組織の稀少がんである横紋筋肉腫のハイリスク小児患者を対象とした、標準治療後の低用量維持化学療法の追加についての第3相ランダム化比較試験
腎臓がん治療に 手術不要?!	・ 転移性腎がん患者における外科的腎臓除去（腎摘出）の必要性を評価する第3相ランダム化比較試験
肺がん 免疫療法	・ PD-L1発現レベルが低い進行非小細胞肺がん免疫療法薬ペムブロリズマブとプラチナ製剤ベース化学療法とを比較した第3相ランダム化比較試験 KEYNOTE-042

ポスター会場では、多くの日本からの先生方にもお会いすることができました。日本からの発表が以前にも増してたくさんあり、とても嬉しい気がしました。



JSCO の先生方が食事会も準備してくださり、みなさんと楽しく過ごすことができました。朝から晩まで充実した 1 週間でした。

帰国後は、当 JAMT（ジャムティ）のセミナーで、ボランティア翻訳者さんに向けて ASCO 参加報告をしました。

次回は、メンターとのことで、アドバイスできるようにしっかり参加したいと思います。このような機会を与えていただき、心より感謝申し上げます。